

Annual Report

2024

2024年 1月期



Contents

経営理念	-----	2
社長挨拶	-----	3
財務ハイライト	-----	4
事業概況	-----	6
■グリーンナップ事業	-----	6
■サプライビジネス事業	-----	7
組織図	-----	8
SDGsへの取り組み	-----	9
社会的責任	-----	13
1 法令及び企業倫理の遵守	-----	13
2 人財の育成	-----	14
3 環境保護活動の実績	-----	16
会社概要	-----	18
沿革	-----	19



経営理念 ^{みんな}「自然と人間がいっしょに幸せになる仕事」

社会・経済構造が劇的な変化を遂げ、確たる指標なき時代、企業は自身の哲学を掲げることに
よって自らの道を切り拓かねばなりません。哲学のない企業に未来を創造することはできない。
—— 私どもが自ら質すなかで出した答えは

「自然と人間（みんな）がいっしょに幸せになる仕事」というキーワードです。

ここには [地球環境・お客様・ビジネスパートナー・社員とその家族・株主] という5つの
ステークホルダーとの共存共栄が謳われています。この5つのステークホルダーとの共存による
「幸せの輪」の創造こそ、私どもが目指す企業像です。

たとえば、どんなに企業の利潤が上がっても、その事業が地球の環境破壊を引き起こしてい
たり、社会倫理に反していたりしたら、その企業は優良と呼べるでしょうか。そこに働く社員や家
族は幸福と言えるでしょうか。一人ひとりの社員が、自分の仕事がお客様に喜んでいただけ
る、社会に貢献していることを実感できてはじめて自らの仕事に誇りと責任感を持つことができ
ます。そして、その責任感はビジネスパートナーとの相互信頼を育み、共に成長しお互いの事業の
成功と発展にもつなげられるのです。さらに事業の成功は利潤を生み、株主の皆様にもご満足い
ただくことができると考えます。

白崎コーポレーションはこの「幸せの輪」の実現に向けて、ここに掲げた経営理念をすべての
企業活動の礎とするべく胸に刻み込み、社会から尊敬される企業となれるよう、そしてトップを
含め社員みんなが夢を語り合える企業となれるよう、今後も自らを厳しく律しながら挑戦を続け
てまいります。



経営方針

- 一、 私たちはいつも環境に心を配り、地球の繁栄につくしていきます。
- 一、 私たちは顧客満足度の向上に努め、お客様の信用をたかめていきます。
- 一、 私たちはビジネスパートナーと共に歩み、確かな信頼関係を築いていきます。
- 一、 私たちは日々の仕事を通して自己を高め、豊かな未来をつくっていきます。
- 一、 私たちは適正な利潤を追求し、株主のみなさまの期待に応えていきます。



ミッション・ビジョン

ミッション 私たちは事業を通じて社会に貢献できる人を育てます。

ビジョン 全社員が自分の会社に誇りを持てるような最高の中小企業になります。



社長挨拶

「2023年度（69期）を振り返って」

代表取締役社長 白崎 智之

2023年度を振り返ってみると、昨年度とは違い明るいニュースが多い一年であったように思います。3月に行われたワールド・ベースボールクラシックでは日本代表が14年ぶり3度目の世界一に輝き、栗山監督の選手を信じる力や、選手の諦めない気持ちには心打たれるものがありました。5月には新型コロナウイルス感染症が5類に移行し、感染対策も徐々に緩和されコロナ禍以前の生活に戻りつつあるように感じられます。また、日経平均も約33年ぶりに3万3千円を超え、全面的な株高や物価上昇に繋がりました。

当社においては全社で増収となり、利益面でも大幅な増益となりました。特に経常利益は、過去10年間で最高を記録し、経常利益率においても6%を超え近年では2番目に高い数値となりました。この結果を踏まえ、昨年は実施できなかった決算賞与の支給と、定期昇給とベースアップを合わせて4.27%の昇給をすることができました。

グリーンナップ事業では過去最高の売上と利益を記録し、素晴らしい結果となりました。昨年4月に行った商品の価格改定と、営業活動が活発になったことが主な要因として挙げられ、さらに昨年からの新たな市場として位置づけしていた、NEXCO、鉄道、エクステリアの3市場で着実に業績を伸ばせたことも大きな要因であると考えています。

「69期は利益を改善出来る見込みです」との予測でしたが、期待以上の成果を上げてくれました。

一方、サプライビジネス事業では減収減益となり、昨年以上に厳しい結果となりました。主な要因としてリユーストナーカートリッジの販売本数が計画通り獲得できなかったことが挙げられます。それでも注力している顧客先での販売本数が復調していることや、毎年下がっていた平均販売単価が下げ止まったこと、そして、製造でのコストダウンが計画通り出来たことはプラスの材料であると考えています。さらに、サプライビジネスの販売店を最大限に活用した、新規商材の取り扱いをスタートできたことは今後に繋がると期待しています。

69期は、苦しいスタートであった社長就任1年目を挽回する素晴らしい1年となりました。サプライビジネス事業では厳しい状況が続いていますが、新規商材の取り組みには非常に期待していますし、全社の将来にとっても大きな役割を担っていると考えています。70期は69期ほどの大幅な増収増益は難しいかもしれませんが、さらなるベースアップと働きやすい職場づくりに取り組んでまいります。



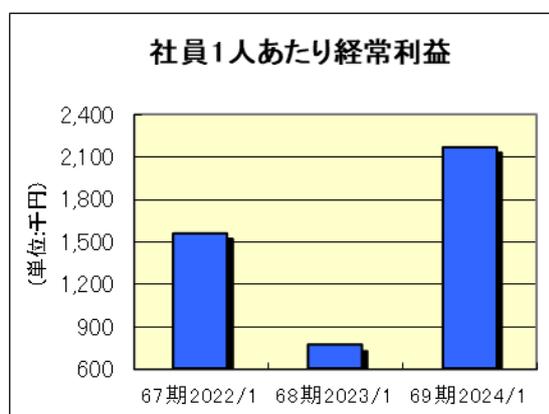
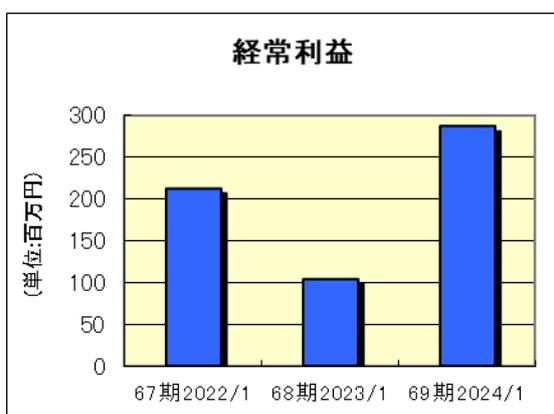
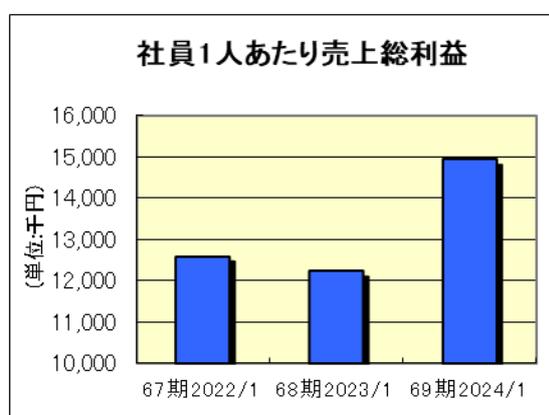
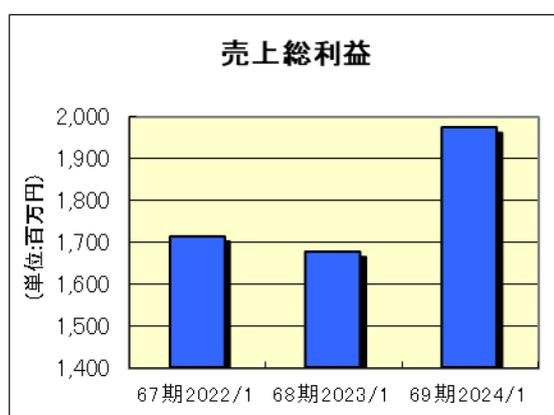
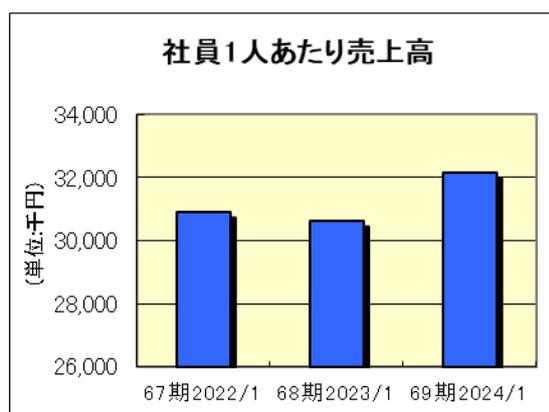
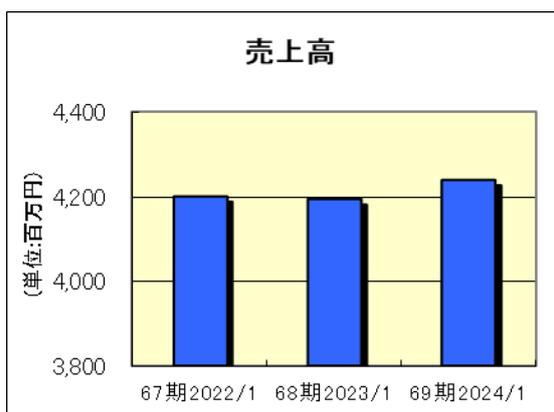
財務ハイライト

	単位	67期 2022/1	68期 2023/1	69期 2024/1
売上高	千円	4,202,372	4,194,748	4,240,970
売上総利益	千円	1,713,396	1,675,955	1,972,307
売上総利益率	%	40.8%	40.0%	46.5%
経常利益	千円	211,575	104,201	286,007
経常利益率	%	5.0%	2.5%	6.7%
総資産	千円	3,082,303	3,105,905	3,498,589
自己資本	千円	1,571,621	1,553,566	1,734,604
自己資本比率	%	51.0%	50.0%	49.6%
総資産経常利益率	%	6.9%	3.4%	8.2%

2022年1月期（67期）から2024年1月期（69期）までの当社の決算の数値を掲載しています。

69期の売上高につきましては、再生トナーカートリッジや事務用消耗品の販売を行うサプライビジネス事業では、7億4,392万円と前期比43.9%の減収となりました。また、防草シートや緑化資材の販売を行うグリーンナップ事業では、34億7,895万円と前期比22.2%の増収となりました。これらに太陽光発電事業の売電収入を含め、全体では42億4,097万円と前期比1.1%の増収となりました。

利益面につきましては、売上総利益は17.6%増加となり、経常利益は2億8,600万円と前期比174.4%の増益の決算となりました。





事業概況

■グリーンナップ事業

取締役副社長 中川 豪

グリーンナップ事業の69期業績は前年対比で増収増益となり良い結果となりました。世の中の円安、物価高、人手不足、光熱費高騰などコスト（仕入原価や営業活動経費）の上昇要因は枚挙にいとまがないなかで、安定した事業運営を行うべく、またこれまでの品質／サービスを持続するために昨年4月に多くの商品の価格改定に踏み切りました。値上げをすることは販売にとって大きなマイナス要因になり得ると考えますが、その中で着実に成長できたのはビジネスパートナー様やお客様に協力していただき、ご理解いただいた結果だと考えています。日頃の事業活動にご支援いただき関係者の皆様には厚く御礼申し上げます。

69期の市場動向を振り返ると、基盤としている公共市場、そして新たな開拓市場と位置付けている鉄道、エクステリア市場など、ターゲットにしているほとんどの市場で販売が増加しました。これは単なる商品の品質の良し悪しだけでなく、これまでの事業活動で積み上げてきた実績と信頼、将来への期待の表れだと認識しています。69期のイベントとして当社のロングセラーであり主力商品である「チガヤシート」の、施工後10年以上経過した現場〔北は東北：秋田県、南は九州：鹿児島県までの合計29ヶ所、150地点〕の調査を行い、冊子としてまとめました。（2024年度版も更新発刊予定）これは当社にとって重要なデータの蓄積と自社品質に対する確固たる自信に繋がりました。現在防草シートの採用要因は耐久年数の長さが要点になっていますが、当社の考えはモノの品質（耐久性も含め）はもちろんの事、現場の良好な状態（雑草害のない水準）が目標期間しっかり持続しているか？の本質的な雑草問題解決へのチャレンジです。そのためには、現場調査／診断から始まり、お客様のニーズに合った最適な提案、そして施工時や施工後のサポートが重要だと考えています。この地道な取り組みが、変化する環境の中でも、競合との比較においてもお客様からご指名いただける理由であると考えています。不確実、不安定の時代だからこそ不動であるべきバリューの大切さを改めて実感しました。

さて70期がスタートし、今期も全社目標である80期100億に向けての大事な1年であることには違いありません。70期の全社方針である、

1. 設計折込（採用キーパーソン）に営業注力
2. 事業、市場での新商品の販売強化
3. 商品と物流経費（倉庫／人員／運賃）のトータルCD
4. 幹部候補の育成
5. 人事評価制度の納得性向上

を全社員で共有し、理解を深め、事業や市場戦略に落とし込み、着実に行動に移したいと考えています。1年1年、みんなで成長を実感し、大きな夢や目標に向けて進んでまいります。

■サプライビジネス事業

常務取締役 相澤 英昭

69期は、新型コロナウイルス感染症の影響も落ち着き、景気回復に向けた動きが進んできたように思います。一方で世界的な物価上昇ならびに円安の影響は大きく、原材料価格、電気料金などの高騰が進み厳しい事業環境は継続しています。このような事業環境の中でサプライビジネス事業としては、減収減益と厳しい結果となりました。

70期に向けたサプライビジネス事業のミッションは、「私たちは再生トナーを中心に、お客様の利益に貢献できる製品・サービスを提供します」であり、昨年度と変更ありません。「お客様の利益」には儲けの意味もありますが、お客様の為になる、役に立つという意味も含んでいて、リユーストナーカートリッジなどの商材で、お客様のお役に立つことが私たちの使命と考えています。また、ビジョンは「私たちは新たな製品・サービスの提供にチャレンジし、継続してお客様から選ばれる企業を目指します」であり、昨年度から変更しています。リユーストナーカートリッジはサプライビジネス事業の基盤であり、今後も事業の柱として継続していきませんが、市場環境は厳しいことから、将来に向けて「グリピカ」と「消臭菌んぐ（しょうしゅうきんぐ）」という新たな商品の取り扱いを今期から本格的にスタートさせることがこの変更の大きな理由です。

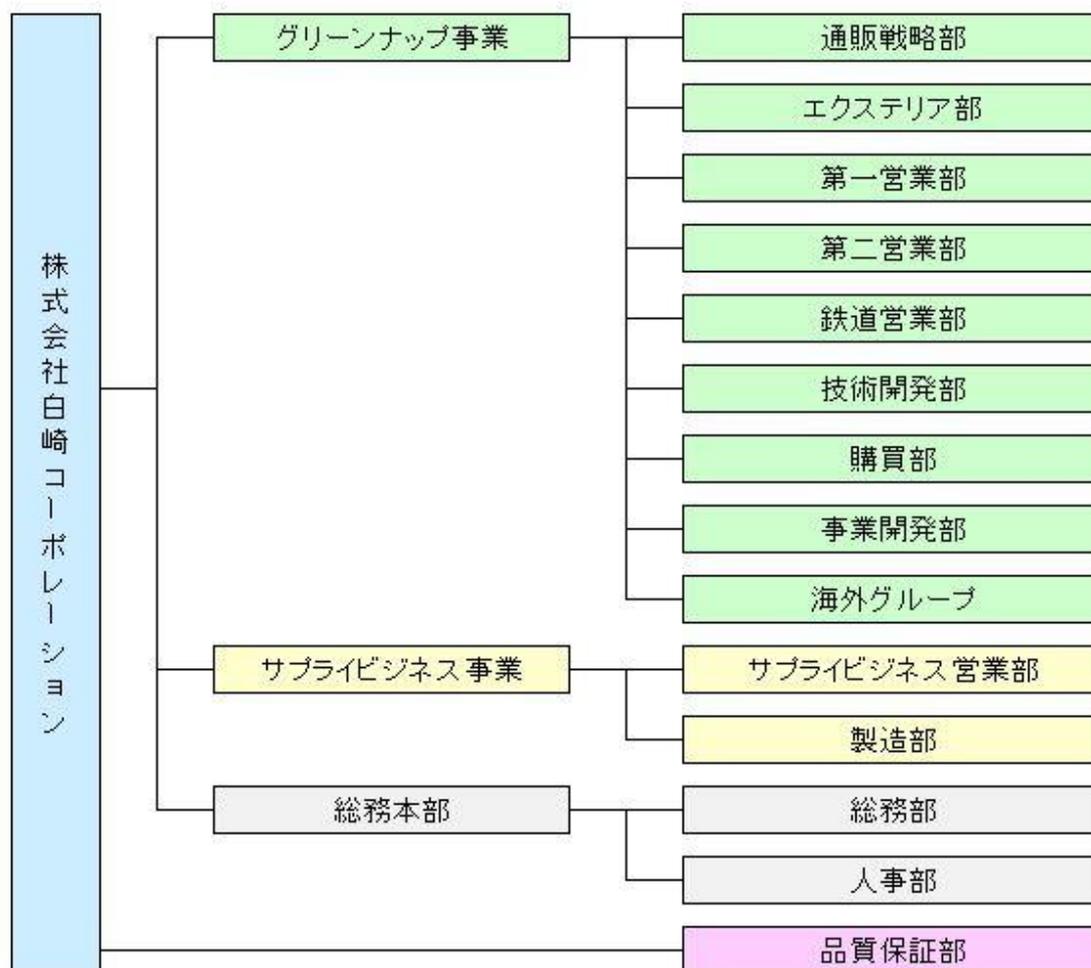
「グリピカ」とは、グリストラップの清掃事業のことです。グリストラップは厨房の排水に含まれる生ごみや油脂が直接下水に流れ込むのを防ぐ設備で、レストランや給食センターなどの業務用厨房に設置することが義務付けられています。この設備は定期的な清掃が必要であり実施しないと、悪臭の発生や、害虫、雑菌の温床となり様々なトラブルに繋がります。この清掃をお客様に代わり、特許を取得している「石鹼化衛生工法」と呼ばれるグリストラップ内の油分を石鹼水に変化させて清掃するという新しい技術を利用して行うものです。この工法は、これまで主流となっているバキューム工法での清掃に比べ様々なメリットがあり、産業廃棄物を出さない且つ環境に優しい排水が実現可能です。

「消臭菌んぐ」とは、自然由来の成分（乳酸菌，酵母菌，納豆菌）で出来ている消臭剤です。毎日シンクから流すことで排水管の汚れ、ぬめり、悪臭を確実に解決し、さらに使い続けることで浄化菌が活性化しグリストラップ内の残渣を軽減する効果があります。また、一般家庭においても同様の効果がある商品です。

「グリピカ」、「消臭菌んぐ」のどちらも自然に優しく環境に良い商品であり、これらの新規商品を当社お客様先で必要としているところに展開を図り、リユーストナーカートリッジと併せて安定した事業運営を目指してまいります。



組織図

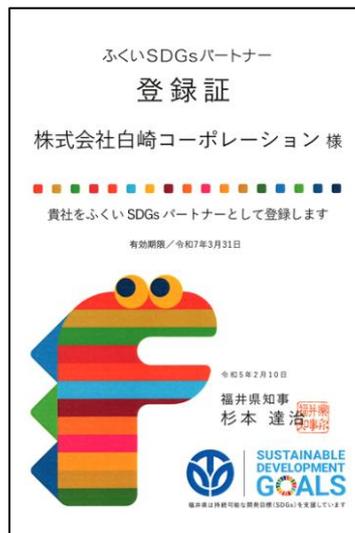




SDGsへの取り組み

当社は国連が提唱する「持続可能な開発目標（SDGs）」に賛同し、
2022年2月1日にSDGs宣言を行いました。

また本社の所在地である福井県が一体となって推進しているSDGs活動に賛同し、
2023年2月10日に「ふくいSDGsパートナー」の登録企業となりました。



■ 取り組み内容

SDGsで提唱されている17目標の中から、以下の項目に重点を置いて取り組んでいます。

- **[商品・サービス]**

環境に配慮した事業をビジネスパートナーと共に更に展開し、環境負荷の低減や持続可能な社会の実現に貢献します。
- **[環境]**

経営理念である“自然と人間（みんな）がいっしょに幸せになる仕事”の実現に向け、事業活動による環境負荷の軽減見える化し推進していきます。
- **[人権・働きがい]**

“社会に貢献できる人材育成”の方針のもと、安全で健康に働き続けられる職場環境や、若手社員が活躍できる組織体制の整備を実現します。
- **[地域・社会貢献]**

地元企業や団体・行政機関との連携により事業活動や地域活動を更に展開し、持続可能な地域社会の実現、住みたくなる地域への発展に貢献します。

■ プロジェクト活動

これらの目標達成には、社員一人ひとりがSDGsに関心を持ち、意識して行動することが重要であるとの思いから、社内に推進プロジェクトを立ち上げました。

「商品・サービス」・「環境」・「人権・地域貢献」の3グループに分け、それぞれのグループでテーマを定めて、目標に向かって精力的に取り組んでいます。

「商品・サービス グループ」

＜テーマ＞

「環境配慮型事業の展開や環境／社会課題解決に資する取り組みの積極的な対外開示」

「コア技術をベースにした新しい製品・サービスの開発」

ふくいSDGsパートナーへの登録



福井県のホームページに当社の活動が掲載され、SDGsへの取り組みを多くの皆様に知っていただけたと考えています。さらに、ホームページやSNSを通してSDGsに関する様々な情報を得ることができるようになりました。また、名刺などにマスコットキャラクター「ジュナナ」を使用できるようになりました。

ふくいSDGsわくわくWorkshopや意見交換会への参加



福井県主催イベントの、“本気で「カーボンニュートラル」に動く1日”をテーマとしたワークショップ、交流会に参加し、業種、職種を超えた意見交換ができたことは、今後活動を進めて行く上でとてもよい刺激となりました。

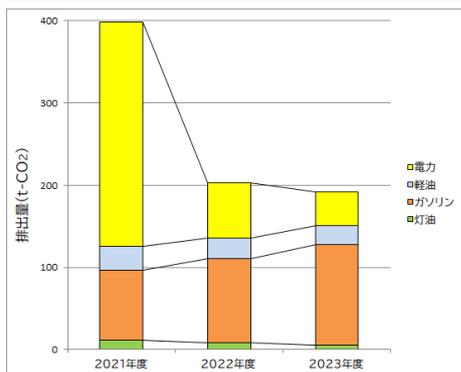
「環境 グループ」

＜ テーマ ＞

「 温室効果ガスの削減 」

「 環境配慮型商品の拡販・開発 」

CO₂ 排出量削減への取り組みと 見える化



本社と福井工場では、2022年から再生可能エネルギー100%の電気を導入し、電力使用に伴うCO₂の排出量は実質的にゼロになり、導入前との比較では会社全体で約50%の削減となりました。



また、クリーンな自然エネルギーであり、有害物質を含む排出ガスを出さず、地球温暖化の原因となるCO₂の削減に大きく貢献できる太陽光発電所を、2014年から福井県内の2カ所で稼働しています。2023年度は約49万キロワットの発電を行い、これは当社の全事業所で使用している1年間の電力量の88%に相当します。

既存商品と同じ性能で、環境に優しい商品の開発

チガヤシートECO

公共工事で実績豊富なチガヤシートの性能そのままに環境に優しい商品ができました

- CO₂排出量削減
従来のチガヤシート46に比べ、約31%のCO₂排出量削減
- リサイクル素材
リサイクル率30%以上 → 70%以上へUP!
- 高い耐久性
耐用年数: 約10年

左写真のチガヤシートECOは、生産にかかわるCO₂排出量を、既存品から約31%削減しました。またリサイクル素材の使用割合を従来の30%から70%以上にUPさせた商品で、不織布素材の防草シートとしては初のエコマーク認定となりました。

トナーカートリッジリユース事業では、既存製品の再生（カートリッジ本体の再使用）可能回数のUPや、環境にやさしい材料や副資材の代替品採用に取り組んでいます。またE&Qマークに適合した製品のラインナップ数を増やしています。このリユーストナーカートリッジは、プラスチックの製造時の原油量や、廃棄処理



で排出されるCO₂を削減できる環境にやさしい製品です。

※「E&Qマーク」とは、リユーストナーカートリッジを皆様に安心してご利用いただくために一般社団法人日本カートリッジリサイクル工業会が定めた「環境と品質」の管理基準です。

「人権・働きがい／地域・社会貢献 グループ」

〈 テーマ 〉

- 「 社員相談窓口、エンゲージメント調査からの改善促進 」
- 「 教育制度拡充による社員の成長機会の拡大 」
- 「 地元企業／団体、行政機関と連携したサービス、及び防草緑化産業の展開 」
- 「 社会福祉法人への業務委託やボランティアへの参加 」

エンゲージメント調査と対応



より働きやすい環境にするには？働きやすい職場とは？を調査すべく全社員を対象にエンゲージメント調査（アンケート）を実施しました。今までは急な体調不良、ちょっとした用事などで遅刻や外出する場合は、遅刻や有休（半日）扱いにしていたことから、時間有給制度を導入して欲しいという要望が特に多く、今回取り上げました。そして各部署での意見を纏め取締役会で提案して実現することができました。現在、多くの社員が使用しています。

また、資格取得への後押しとなるような支援制度の拡充について現在検討中です。さらに、社員の抱えている悩みから、職場・上司への要望などを書き込める白崎ネット（社内グループウェアシステム）の 相談窓口システム を、より活用しやすくする取り組みも行っています。

白崎コーポレーション 納涼祭 の開催



当社の恒例行事として納涼祭を毎年開催していましたが、新型コロナウイルス感染症の影響で長年中止となっていました。しかしながら、2023年に感染対策が緩和されたこと、また社員からの強い要望もあり4年ぶりに開催することができました。この納涼祭は若手社員が中心となって企画から実施までの運営を行い、焼き鳥、焼きそば等の食べ物、飲み物、ゲームなどのイベント、また、当社で製造・販売している防草シートの格安販売もしています。社員はもちろんのこと、当社のOB・OG、本社近隣の住民の方々や、障害者支援施設の方々もお招きし交流を深めるとともに、日ごろの感謝を伝える大変良い機会となっています。



社会的責任

先進国では社会が豊かになるに従い経済成長以外のさまざまな価値観が生まれ、企業評価の指標として、法律や制度で定められた範囲を超えて「よりよい行動」をすることを望ましいとする傾向が生まれています。当社では経営理念および経営方針として企業活動をめぐる5つのステークホルダー（地球環境・お客様・ビジネスパートナー・社員とその家族・株主）との共存共栄を、またミッションとして社会に貢献できる人財育成を掲げて社会的責任の整備と強化を行っています。企業に求められる社会的責任の内容は時代とともに変化していきます。積極的な働きかけにより地域社会の抱えている問題を十分認識したうえで、事業を通じて蓄積したノウハウや能力を社会に還元し、問題解決に貢献していくことが、地域社会からの信頼につながるものと考えています。

[1] 法令及び企業倫理の遵守

■企業倫理

2001年に企業倫理の徹底を図るため、以下の5項目からなる「倫理二十五箇条」を制定しました。

1. 職場環境
2. 5S活動
3. 環境
4. 営業・業務活動
5. 会社資産の保護

これを社員全員が「経営理念」「経営方針」といっしょに毎日の朝礼で唱和することにより、理解の徹底から実行を図っています。

■お客様情報及び個人情報の管理

社内の情報管理については、以下の5つのセキュリティルールを定めて情報管理研修を実施するとともに全社員から誓約書を徴収し、情報漏洩の未然防止を図っています。

1. パソコンの利用に関するセキュリティルール
2. 外部媒体の利用に関するセキュリティルール
3. メール利用に関するセキュリティルール
4. インターネット利用に関するセキュリティルール
5. 白崎ネット（社内グループウェアシステム）へのアクセスに関するセキュリティルール

また、特に個人情報の取扱いについては、その取得から利用・開示・利用停止・消去に至る詳細な運用ルールを定め、個人情報の保護に努めています。

[2] 人財の育成

1. 社員とともに

当社の使命は「事業を通じて社会に貢献できる人を育てる」ことであり、そのためには「社員は財産（人財）」と考えています。社員が安心して働ける環境を整え、自ら考え、学び、行動できるように様々な制度や仕組みを作り、社会に貢献できる人づくりを推進しています。

■新卒採用 ～若いフレッシュな感覚に期待～

2007年から新卒採用活動を積極的に推進しています。若手社員をリクルーターに選抜し、彼らを中心に会社説明会や面接等を運営しています。2022年4月に4名、2023年4月に2名、2024年4月に4名の有望な人財を採用することができました。

■社員教育

社員の能力開発と挑戦する組織風土の形成を目指して、2005年度に教育体系をOJT・集合研修・自己啓発の三本柱として再編成を行い、2006年度から本格的な社員教育を実施しています。社員教育の基本は職場における指導・育成であるOJTにありますが、OJTでは補い切れない能力開発の場として階層別やテーマ別の社内研修を推進しています。

また通信教育受講や社外研修等参加の費用補助も実施していて、社員の積極的な自己啓発の取り組みを支援しています。

■ビジネスキャリア検定試験と公的資格 ～専門能力と管理能力～

自己啓発の動機付けと取得能力を評価・測定するツールとして「ビジネスキャリア検定試験」の受験を推奨していて、春と秋に実施される試験には毎年多くの社員が受験しています。合格者は社内の掲示板に掲載し昇格試験にも活用しています。例えば部長職であれば職務分野2級1科目以上および共通分野（労務管理、経営戦略など）3級1科目以上の合格が必須で、専門能力と管理能力の両面の自己啓発が要求されます。また業務に関連した公的資格への挑戦も奨励していて、難易度に応じてビジネスキャリア検定合格と同等の評価をしています。

■目標管理制度 ～目標は自分で考え、決めて、実行～

当社の目標管理制度は、社員一人ひとりがそれぞれの部署の目標をもとに上司との話し合いを通じて自分の仕事の目標を立てて計画的に取り組み、半期毎に年2回達成度合を評価する制度です。個人の目標は上司との個人面談を通して十分に話し合っ決めていくことになっていて、社員の自発的な行動を促す仕組みとなっています。

■褒める社風の定着 ～社員表彰制度～

会社や社会に貢献した社員を全員で褒め称えるために、以下の4つの表彰制度を制定し、広く社内に公開しています。

1. 永年勤続表彰
2. 白崎MVP
3. 改善提案優秀賞
4. 5S大賞

特に白崎MVPは2001年から継続していて、社員相互により推薦された中から選抜されます。これらはすべてが公開され、他部門との連携・協力や、ボランティア活動など、自分の業務以外の功績による推薦も多数見受けられます。

2. 地域社会とともに

企業も社会の一員であると考え、積極的な社会貢献活動に取り組むことにより社員の社会貢献意識を高めています。さまざまな活動を通じて地域の方々との交流を図り、地域社会と共に成長していきたいと考えています。

■NPO法人への支援

NPO法人「緑地雑草科学研究所」は、人々の生活圏の緑地環境を創り向上させることを目的として設立されました。そのNPO法人を支援することにより適切な雑草の制御技術や利用技術の確立と普及活動に貢献しています。

■納涼祭

新型コロナ禍以降中断していた毎年恒例の納涼祭ですが、社員からの強い要望もあり4年ぶりに復活させました。この納涼祭には近隣住民の方々だけでなく当社のOBも多数参加し、社員と一緒に焼きそばや焼き鳥、イベントなどを楽しむ交流の場として非常に好評をいただいています。2012年からは若手社員が中心となって企画から実施までの運営を行い、若手社員と他部署の社員とのコミュニケーションを深める良い機会にもなっています。今回は久々の開催ということもあり大盛況の納涼祭でしたので、ふたたび夏の恒例行事として定着していくものと思われれます。

【3】 環境保護活動の実績

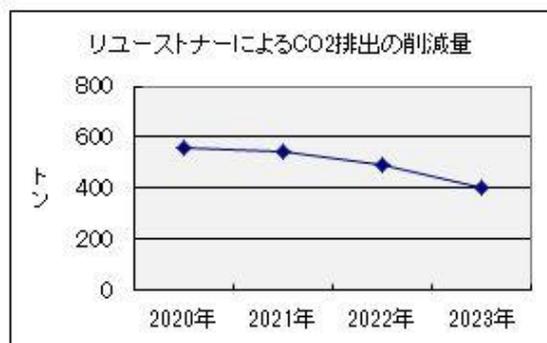
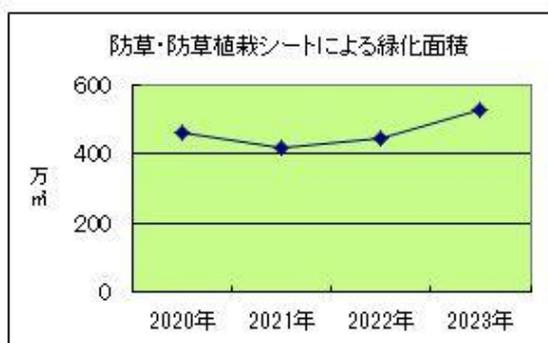
当社では限られた資源を有効に活用し、出来る限り環境に負担をかけない企業活動に全事業所で取り組んでいます。

■防草緑化事業による環境保護

雑草を抑える防草シートや雑草を抑えながら目的の植物を育てる防草植栽シートを施工することにより、公園や道路の法面、太陽光発電施設等の雑草問題を解決して、貴重な緑地資産の価値を高めることが出来ます。また低コストでの管理が可能になるため、維持にかかるエネルギーを削減しながら社会の景観美化を推進することが出来ます。2023年度は520万平方メートルの緑化を行いました。

■トナーカートリッジリユース事業による環境保護

トナーカートリッジ本体を再利用するリユーストナーカートリッジは、限りある資源を有効に活用する循環型社会において重要な役割を担っています。リユーストナーカートリッジを使用することにより、本体のプラスチックの原料である原油を1本あたり2.6リットル削減できるという効果があります。またリユーストナーカートリッジは本体のプラスチックの製造や廃棄処理におけるCO₂の排出量の削減にもつながるため、1本あたり3.4キロのCO₂が削減できるという効果もあります。2023年度は403トンのCO₂排出量削減につながりました。



■廃棄物のリサイクル

工場の生産工程で投入される材料や資材ロスの低減、コピー用紙の再利用を行うなど、社内の省資源化に努めています。また発生したトナーカートリッジ等の廃棄物はプラスチックの原料や金属資源として、梱包材等に使用されていたプラスチックの廃棄物は梱包用ラップの原料としてリサイクルすることにより、資源の有効活用を行うと同時に最終処分量の削減に努めています。

■太陽光発電の導入

太陽光発電のメリットはクリーンな自然エネルギーであり、地球温暖化の原因となるCO₂の削減に大きく貢献できます。当社が福井県内に所有している太陽光発電所には鯖江太陽光発電所と三国太陽光発電所の2箇所があり、2023年度は約49万キロワットの発電を行いました。これは、当社の全事業所で使用している1年間の電力量の88%に相当します。

またこれらの太陽光発電所にはグリーンナップ事業で販売している「太陽光発電用防草シート」を使用していて、太陽光発電の障害となる雑草の繁茂を長期間抑えることで、効率の良い発電を維持することができるようになっています。

■再エネ電気の導入

本社と福井工場では2022年から再エネ電気を導入しています。この水力・太陽光・風力等の再生可能エネルギーの電源を由来とした再エネ100%の電気により、本社と福井工場の電力使用に伴うCO₂の排出量は実質的にゼロになり、会社全体として大きなCO₂排出量の削減につながっています。



会社概要

会社名	: 株式会社白崎コーポレーション
設立	: 1955年7月2日
資本金	: 9,800万円
代表者	: 代表取締役社長 白崎智之
従業員数	: 146名
事業内容	: 防草シート、防草植栽シート、その他緑化資材の開発・製造・販売 リユーストナーカートリッジの設計・製造・販売 トナーカートリッジ、インクリボン、その他事務用消耗品の購入販売 グリストラップの清掃 菌んぐシリーズの製造・販売
本社・福井工場	〒916-0076 福井県鯖江市石生谷町11-23 代表 TEL: 0778-62-2200 FAX: 0778-62-3336
東京支店	〒103-0023 東京都中央区日本橋本町2-6-3 小西ビル グリーンナップ事業 TEL: 03-6892-4400 サプライビジネス事業 TEL: 03-3667-9881 FAX: 03-3667-9880 (共通)
西日本営業所	〒660-0881 兵庫県尼崎市昭和通3-90-1 尼崎K. Rビルディング グリーンナップ事業 TEL: 06-6430-1713 サプライビジネス事業 TEL: 06-6430-1711 FAX: 06-6430-1715 (共通)
九州営業所	〒812-0042 福岡県福岡市博多区豊2-3-80 グランシャリオ豊 グリーンナップ事業 TEL: 092-473-1452 サプライビジネス事業 TEL: 092-473-1430 FAX: 092-473-1436 (共通)
福井物流センター	〒915-0801 福井県越前市家久町27-1-1 注文業務窓口 TEL: 0778-42-8353 FAX: 0778-42-8515 倉庫業務窓口 TEL: 0778-21-8500 FAX: 0778-21-8502



沿革

2023年 ● グリストラップの清掃・消臭事業への参入

2022年 ● 白崎智之が代表取締役社長に就任



代表取締役社長 白崎 智之



白崎白崎コーポレーション 東米岡事業用地太陽光発電設備

2015年 ● 鯖江太陽光発電所発電開始

2012年 ● 濟南古菱納普商貿有限公司（ジナングリーンナップ）設立
福井物流センター稼働

2011年 ● 事業会社を統合
（株）白崎コーポレーションに商号変更
シラサキベトナムコーポレーション売却

2005年 ● （株）白崎ホールディングスに商号変更
ホールディングカンパニー制に移行

2000年 ● ISO9001 認証取得

1999年 ● 九州営業所開設
ISO14001 認証取得

1997年 ● 西日本営業所開設
シラサキベトナムコーポレーション設立

1996年 ● トナーカートリッジリユース事業への参入
防草緑化事業への参入

1994年 ● 白崎テープ（株）と株式会社羽田が合併
（株）白崎コーポレーションに商号変更

1989年 ● 白崎弘隆が代表取締役社長に就任

1971年 ● 白崎テープ工業（株）とラーク貿易（株）が合併
白崎テープ（株）に商号変更

1955年 ● 福井県鯖江市に白崎テープ工業（株）設立

1949年 ● 創業者白崎元就が個人創業

